

未来をひらく思いをつたえる

Hiraku

40

アイデアを
お待ちしています!

「Hiraku」では、英語・幼児教育の最新ニュースやトピックなど皆さんに役立つ情報を届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしています!

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hiraku

2025年7月発行 Vol.40

次回 9月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ
TEL : 06-6135-0150
〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1
ぶらら天満ビル 2F
www.kinderkids.com



★My Stepping Stone<File10>

★スタッフ・コラム『旅先の公園で見つけた子育てのヒント』

★インフィニティ初等部「教育懇話会」

★25周年ロゴと記念ユニフォームのご紹介 ★25周年記念イベント情報



日本的心と、英語の力。Kinder Kids inc.

My Stepping Stone (File10)

スタート地点はキンダーキッズ。

卒園後、自らの力で切り開いたフィールドで、

奮闘している卒園生をご紹介します。

カナダ・オークビル校のディレクター、Stephanie先生から届いた一本のメール。「日本から卒園生が訪ねてきてくれたの!」というその知らせには、懐かしい卒園生の近況が綴られていました。

2013年にキンダーキッズ奈良登美ヶ丘校を卒園した S.K. さん。今春高校を卒業し、大学入学までの春休みにStephanie先生宅でホームステイしながらスクールでのボランティアに挑戦しました。話を伺うと、高校3年生のときにはアフリカ・ザンビアでも現地の子どもたちと向き合う活動に参加していたとのこと。卒園から12年。世界を舞台に経験を重ねた彼女の歩みと、その原点にある想いを辿ります。

進む道を見つけた、“命”と向き合う14日間

高校3年生の夏、奈良市の海外派遣プログラムに参加し、アフリカ・ザンビアを訪りました。

現地では、ストリートチルドレンとの交流や、スラム内の学校での教育支援、農村部の病院訪問など、さまざまな活動に取り組みました。そのなかで、「命とは何か」「命を守るはどういうことか」といった問いに、自然と向き合うようになりました。薬物で空腹や苦しさをごまかしながら生きている子、ゴミ箱から食べ物を探している子…。同世代の子どもたちが「今日を生き抜くこと」に必死になっている姿を前に、言葉を失い、私たちが当たり前に感じている日常が、どれほど恵まれているのか一心の底から実感させられました。

活動をともにした責任者の方からいただいた、「今、大きな夢がなくても、やりたいことを少しずつやっていけば、きっと見つかるよ」という言葉も、今でも強く心に残っています。机の上で考えているだけでは出会えなかった学びや感情が、ザンビアにはたくさんありました。この経験をきっかけに、NPOや人を支える活動への関心がさらに高まりました。将来は、国際的なフィールドで人の助けになれるような活動を続けていきたい——そう強く思うようになったのも、この14日間があったからです。そのとき芽生えた想いが、キンダーキッズ・カナダでのボランティアを決意する後押しになりました。



奈良登美ヶ丘校
卒園生
S.K.さん

順天堂大学
1年生



スラムの学校で、日本語も交えて
手洗い指導を実施



学校の子どもたちと一緒に
夏祭りの準備を進める

命とは何か」を問い合わせながら、

勇気を出して踏み込んだ世界

自分の中に芽生えた想いが、

進む道を照らしてくれた



卒園から12年、カナダで見つけた「変わらないもの」と「新たな発見」

高校卒業後の春休みに、カナダのキンダーキッズ・オークビル校で約4日間のボランティアを行いました。現地では園児の学習補助に加え、日本人スタッフの協力のもと、Japaneseクラスでもティーチャーアシスタントとして活動。折り紙で季節の花を折ったり、「はじまるよ」などの日本の手遊び歌を紹介したりしながら、日本文化を楽しく伝える工夫を重ねました。卒園生として海外の園に関わるなかで、先生や園児が多様な国や地域から集まる“国際性の高さ”は今も変わらないと感じました。

一方で、カナダ校では人種や言語の多様性がより一層際立っていて、英語・フランス語・日本語の三言語に自然にふれる環境に驚かされました。多文化の中で過ごすことが、日常として当たり前に根付いている——そんな姿に、深く印象づけられました。



折り紙で日本文化を楽しく紹介

英語だけじゃない、世界への扉を開いてくれた原点

さまざまな経験を重ねるなかで、英語や異文化への出発点となつたキンダーキッズでの日々を、ふと思い返すことがあります。園生活を通して自然に英語の音に親しみながら、それぞれの文化や価値観にも楽しくふれることができました。多様な背景を持つ先生や友だちと過ごすなかで、違いを受け入れる姿勢や、自分の意見を伝えるチャレンジ精神も少しずつ育まれていたように思います。

こうした土台が、今の自分につながっていると感じています。

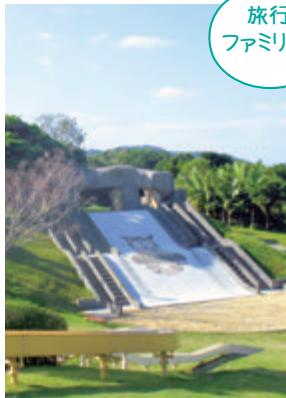


ストリートチルドレンとの交流を通して、現地のリアルにふれる

国際的な視野と柔軟な思考を備え、グローバルに活躍できる薬剤師を目指して

同志社国際学院国際部や立命館宇治高校のIBコースでは、より高度な英語力を身につけ、学術的な文章の読み書きやリサーチスキルを磨いてきました。多様な背景を持つ先生やクラスメイトと過ごすなかで、多角的な視点や批判的に考える力も自然と育まれたように思います。

現在は順天堂大学薬学部で薬剤師を目指し、チーム医療の重要性や実践的な知識を学んでいます。海外での研究経験を持つ教授陣から指導を受けることで、世界の医療に関する最先端の知識にもふれる機会が多く、学びの視野がさらに広がっていると感じます。将来は、英語力と薬学の専門性を活かして、国際的な現場で人の力になれる薬剤師を目指します。



石垣島 バンナ公園

旅行好き
ファミリー必見!



キンダーキッズ スタッフ・コラム

旅先の公園で見つけた子育てのヒント

小さな子どもを連れての旅行には、楽しいことだけでなく、思いがけない苦労や工夫もつきものです。子育て中のキンダーキッズ本部スタッフが旅の途中で見つけた、親子の成長につながる公園での体験をお届けします。

公園時間は家族の“ひと休み”

家族で旅行をするのが、私たちの大きな楽しみです。けれど、移動時間や観光地での行列など、小さな子どもにとっては待ち時間の連続。そんな中で、旅先で必ず立ち寄るようになったのが「現地の公園」です。限られた旅行の時間をわざわざ公園で使うなんてもったいないと最初は思っていましたが、今では家族みんなの気持ちをリフレッシュさせる大切な時間です。



奄美大島 あやまる岬観光公園



石垣島で出会った親子の姿

先日訪れた石垣島の「バンナ公園」は、山の斜面を活かした広い公園で、遊具も豊富で景色も抜群。地元の家族連れがピクニックをしたり、子どもたちが思い切り体を動かして遊んだりする姿は、都会の公園ではなかなか見られない光景でした。

特に驚いたのは、まだ1、2歳くらいのよちよち歩きの子がボルダリングの壁に挑戦していたことです。お母さんはそっと手を添えるだけで、「危ないからダメ!」とは言わず、何度も滑り落ちても子どもが自分で立ち上がるのを待ってあげていました。膝をすりむいても気にせず、とうとう2メートルほどの高さまで登り切った姿には、親の見守る勇気を教えられました。この様子を見て、親ができるのは「危ないから止める」ことだけじゃないのだと気づかされました。



石垣島 バンナ公園

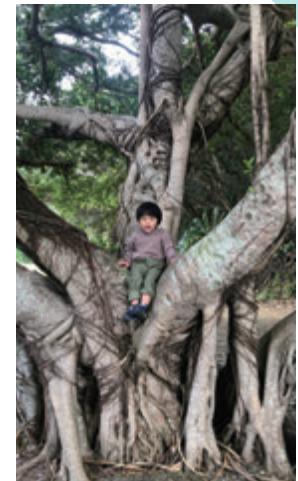
子どもを信じて、少しだけ背中を押す

木陰の広がる公園の一角で、子どもたちが背丈ほどの枝を集めて夢中になって秘密基地を作っていました。いつもの公園だったら、枝を持って走っているだけでも「危ないからやめなさい」と注意してしまうところです。そんな中、一人の男の子が落ちている枝だけでなく、木に登って枝を折ろうとする場面もありましたが、すぐに他の子が「それはダメ!」と止めていて、子どもたち同士でちゃんとルールを守る雰囲気ができていることに驚きました。

また、大きな子が木登りをしているのを見て「やりたい!」と言いました。親はなんて言うのかと思っていたら、ちらっと周囲を見て「これくらいの高さなら落ちても死なないから、やってみな」と後押ししていました。普段なら「小さい子が真似するからやめなさい」と言ってしまいがちですが、石垣では小さい子が大きな子をお手本にして、どんどんいろいろなことに挑戦していました。その姿に、普段は慎重派の私の息子も刺激を受けて、思い切って高い遊具に登ってみたり、地元の子と一緒にになって遊んでいました。

旅の公園で学んだことを、日常にも

都会では、限られたスペースで安全に遊ぶためにルールを守ることも大事です。けれど、どこで遊んでも、親が子どもの挑戦を信じてそっと見守ることはできるはず。そして、その時間を親も一緒に楽しむことで、子どもは安心して冒険できるのだと感じました。公園には、その土地ならではの子どもの遊びや、親子の関わり方のヒントがたくさん詰まっています。バンナ公園での気付きから我が家では、「公園あそび」を旅のプランに必ず入れるようにしています。これからも子どもと一緒に公園で遊ぶ時間を取り入れながら、その土地ならではの空気を感じ、旅の思い出をもっと深く、豊かなものにしていけたらと思います。



海辺のガジュマルの木も立派な遊び場(奄美大島)



街角の小さな遊具スペースでも、ちょっと寄り道



【バンナ公園 (沖縄県石垣市)】

沖縄・石垣島の山の中腹にある自然を活かした公園。大型遊具や展望台があり、地元の家族連れがピクニックを楽しむ姿が見られます。広い敷地内には散策路や展望台も整備されていて、一日中のんびり過ごせる人気のスポットです。



INFINITY
GLOBAL
ELEMENTARY
SCHOOL



KINDER KIDS
International School

「つながっている」ことを実感できる一日

懇話会& 体験レッスン

キンダーキッズで育んだ興味や姿勢が、そのまま自然に初等教育へつながっていく——。そんな“地続きの学び”を実感してもらうために行われた、インフィニティ初等部による懇話会と体験授業。懇話会では保護者がインフィニティの教育への理解を深め、体験授業では園児が学ぶ楽しさを実感する、充実した一日となりました。

保護者との対話から始まる“つながり”的実感

インフィニティ初等部では、今年度よりキンダーキッズ各校を訪問し、K3の園児には体験授業を、保護者の皆さんには教育懇話会を実施しています。初等部がキンダーキッズの学びの延長にあることを、より身近に感じていただくための取り組みです。

懇話会は「説明会」ではなくあえて「懇話会」とし、リラックスした雰囲気の中での対話を重視。初等部の教育内容や進路方針をご紹介しながら、保護者からはご家庭での教育観や進学に関する率直なご意見・ご質問を多数いただき、相互理解が深まる時間となりました。

保護者の“声”から見えてきた連携のこれから

懇話会の中で特に多く寄せられたのは、中学校進学に関するご質問でした。将来的な進路の選択肢や、国公立中学校への進学が可能かといった具体的なご相談に対しては、私たちが大切にしている「一人ひとりに寄り添う進路指導」や、「画一的なルートを示すのではなく、ご家庭の意向に合わせて柔軟に対応していること」などを丁寧にお伝えしました。

また、「初等部の存在を今回初めて知った」というお声も多く、情報発信の在り方について、私たち自身も改めて考えるきっかけとなりました。一方で、「卒園生やキンダーキッズ出身の先生方がいると聞いて安心した」「教室や先生の雰囲気に、どこか懐かしさがある」といった感想もいただき、幼児期と初等教育とのあいだにある“連続性”や“環境の一体感”を感じただけたことに手応えを感じています。

インフィニティがめざすのは、幼児期の学びを確かなつなぎながら、次のステージでもお子さまの可能性をのびのびと育していくこと。今回の懇話会は、



懇話会では、インフィニティ初等部の特色あるカリキュラムや、日本語とのバランスについて丁寧に説明されました

その理念が少しでも伝わる場となったのではないかと感じています。

インフィニティの特色ある学び——IPCと日本語のバランス教育



International
Primary
Curriculum

インフィニティ初等部では、イギリスのナショナル・カリキュラムに準拠した学習目標をもとに構成された、国際的な教育プログラム「IPC(International Primary Curriculum)」を採用しています。

英語での「読み書き」や
「読解」を重視

10教科を横断する探究型プロジェクトで、
教科を越えた学びを実践

英語での授業と並行して日本語の国語・算数も
重視し、日本語で思考・表現する力も育成

幼児期の探究的な学びを、
無理なく初等教育へとつなげる設計

英語と日本語のバランスを大切にすることで、将来の進路の幅を広げられる力を育てています。

楽しみながら“探究”する心を育む授業

K3の園児たちに向けた体験授業では、インフィニティ初等部が掲げる「8つのパーソナル・ラーニング・ゴール(PLG)」の中でも、“Communicator(対話する力)”の育成に焦点を当てながら、子どもたちの思考と探究の芽を丁寧に引き出しました。今回の授業を担当したインフィニティの教員にとっても、子どもたちの反応を直に感じ取ることができる、貴重な機会となりました。

レッスンの導入では、「夜に眠れないフクロウの主人公、音や光に敏感に反応する」というストーリーの絵本を英語で読み聞かせ、光や感覚の世界に対する興味を自然に引き出しました。その後のアクティビティでは、「昼の光はどこから来るの?」「月の光は?」「懐中電灯の光は?」といった問い合わせを通じて、光の正体や性質についての想像や推測を促し、子どもたち自身の言葉で考えを深める対話が生まれていきました。

活動の終盤には、自由な探究活動として、色セロファンや色水を使っての光の変化の観察や、素材を重ねての影の変化の体験などにも発展しました。その中で、「transparent(透明)」や「opaque(不透明)」といった少し難しい語彙も紹介され、さまざまなプラスチック素材、紙、プリズムなどを使って、光がどのように通るのか、反射されるのか、あるいは遮られるのかを観察・検証しました。自ら



音や光に敏感なフクロウの物語を通して、光の存在に対する感覚や探究心を自然に引き出しました



異なる素材で作られたネズミ型のカードを使って、光の通り方や影のでき方の違いを体感しました。

の手で素材を試し、見え方や変化を確認するというハンズオン（体験型）学習を通じて、子どもたちは夢中になって学び、学びを楽しむ姿勢が自然に引き出されました。

終始笑顔でレッスンに取り組んでいた子どもたちは、きっとその夜、家の中でふと目にした光にも、少し違った視点で気づきを得ていたのではないでしょうか。



「transparent」「translucent」「opaque」などの語彙とともに、光の性質について視覚的に理解を深めました



インフィニティの8つのパーソナル・ラーニング・ゴール (PLG)

インフィニティ初等部では、国際カリキュラムIPCの理念に基づき、子どもたちの人間力を育む「8つのパーソナル・ラーニング・ゴール (PLG)」を掲げています。これらは、以下のような力をバランスよく育てるこことを目指しています

Adaptable
(受け入れる力)

Collaborator
(協力する力)

Communicator
(対話する力)

Empathetic
(寄り添う力)

Ethical
(正しく判断できる力)

Resilient
(やりぬく力)

Respectful
(相手を大切にする力)

Thinker
(考える力)

インフィニティ初等部からのメッセージ

インフィニティ初等部は、「みんなが幸せになるための学校」を理念に掲げ、キンダーキッズでの学びをそのまま自然に初等教育へつなげていくことを目指しています。目指すのは、世界中どこにいても幸せに生きられる子どもたちの育成です。私たちは、グローバルな視点と倫理観を持ち、自ら考え、対話し、挑戦を恐れず行動できる力を育みたいと考えています。そのために、日本語による自己理解や表現を大切にしながら、継続的な英語環境を提供しています。

懇親会や体験授業を通じて、子どもたち自身が「インフィニティに行ってみたい!」と思えるきっかけに、また保護者の皆さんにとっても、「ここならわが子の未来を託せる」と思える場になっていければ幸いです。これからもキンダーキッズとインフィニティ初等部が連携し、一人ひとりの可能性を引き出す学びを共に創ってまいります。未来を担う子どもたちのために、ぜひ私たちと一緒に歩んでいきましょう。

インフィニティ国際学院初等部 2026年度 募集要項

- 募集人員：男女若干名
- 出願資格：2019年4月2日～2020年4月1日までに生まれた者、かつキンダーキッズまたは他の英語プリスクールに通う者
- 出願期間：2025年7月22日(火)9:00～8月6日(水)17:00
- 選考日：2025年8月22日(金)・23日(土)のいずれか
- 選考会場：インフィニティ国際学院初等部
- 選考結果発表：2025年8月27日(水)に出願時のメールアドレスへ結果通知メールをお送りします。
- 願書フォーム：HPの「2026年度入学児童募集要項(右記QRコード)」にて掲載
- 出願方法：インターネット出願のみとなります。書面での出願はできませんのでご注意ください。

最新の活動情報はInstagramをCheck!



“∞”の想いをのせてー

25周年ロゴと 記念ユニフォームのご紹介



25周年を迎えて

2000年の創立から四半世紀。キンダーキッズは25周年を迎えました。この節目にあたり、これまで支えてくださった皆様への感謝と、未来への想いを込めて、特別なロゴマークを制作しました。

卒園生が手がけたロゴデザイン！

今回のロゴをデザインしてくれたのは、キンダーキッズの卒園生であり、現在はデザイン会社「Syndva」の代表として活躍するクリエイターワタナベ 勇太朗さん。自身のルーツであるキンダーキッズの節目を彩るべく、快く引き受けくださいました。

ロゴに込められた意味

“25”的数字の中に、無限大∞のモチーフと、キンダーキッズのエンブレムにも使われているフクロウの顔を重ねたデザイン。過去と未来、知恵と飛躍をつなぐ想いが込められています。

特別ユニフォームも完成！

この記念ロゴをあしらった、25周年記念ユニフォームも制作しました。スタッフが着用し、各校での行事や写真撮影などお披露目される予定です。見かけた際は、ぜひ注目してみてください。



記念イベント開催

キンダーキッズは今年で25周年を迎えます。
子どもたちの成長を見守ってくださった皆さまと、
特別な一年と一緒に楽しめるよう、
各地域でさまざまなイベントを企画しました。
思い出づくりのひとときに、ぜひご参加ください。



関西

Kinder Aloha Carnival

家族で楽しめるハワイアンスタイルのパーティを、ランチとディナーの2部制で開催！フラダンスの披露やレイのプレゼント、縁日ブースなど、南国の雰囲気に包まれて楽しいひとときを！夜には、色とりどりの花火も登場し、イベントを一層盛り上げます。



日時	2025年8月30日(土) [ランチの部] 10:00～14:00 ※小さなお子様向け [ディナーの部] 16:00～20:00
----	--

会場 キンダーキッズ神戸シーサイド校

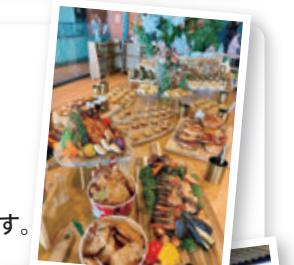
対象 キンダーキッズ在籍生・卒園生のご家族

内容 食事・スナック・デザート・ソフトドリンク付き（ディナーではアルコールも提供予定）
縁日スタイルのアクティビティ・フォトブースなど

関東

ファミリー食事会

緑あふれる馬事公苑の施設を舞台に、ご家族でゆったりと
楽しめる特別な食事を開催します。ランチビュッフェのほか、
スタンプラリーやフォトブース、記念品のプレゼントなども
予定されており、親子で心温まるひとときをお過ごしいただけます。



日時 2025年9月20日(土) 10:00～13:30 ※予定

会場 馬事公苑内レストラン

対象 キンダーキッズ在籍生・卒園生のご家族

内容 食事・スナック・デザート・ソフトドリンク付き
スタンプラリー・フォトブース・記念品の配布ほか

全国

キンダーキッズ25周年記念ゴルフコンペ

ビュッフェ形式の昼食＆プレー後に表彰式とパーティーを実施。

チャレンジ企画や抽選会もあり、交流とゴルフを楽しめる

特別な一日です！万博も兼ねて大阪へお越しください！

日時 2025年9月25日(木) 7:30頃から順次開始予定

会場 貸切開催 太子カントリークラブ（大阪府太子町）

対象 在園・卒園保護者（全国のキンダーキッズ、
インフィニティ、グラッドクラブ含む）

形式 ストロークプレー方式（通常スタート）

参加費 プレー費+コンペ参加費



関西

阿波座フェスティバル 2025

クラフトやアクティビティ、フードトラック、フォトブースなど親子で楽しめる企画が盛りだくさん！ムーンロッカーズのライブパフォーマンスも実施予定。

今年も、ご家族で楽しいひとときをお過ごしください♪

日時 2025年9月15日(月・祝)

[午前の部] 10:00～12:30

[午後の部] 13:30～16:00

会場 キンダーキッズ阿波座校および周辺施設

対象 キンダーキッズ・グラッドクラブ・インフィニティの在籍者とそのご家族

内容 クラフト体験、屋外アクティビティ、
フードトラック、フォトブース、ステージパフォーマンスほか



福岡

Fukuoka Festival

福岡校で初のお祭りイベント開催！模擬店やクラフト、ゲームに加え、Excited Fox も福岡初登場♪バザー収益はキンダーキッズが支援するカンボジアの子どもたちへの寄付に充てられます。

日時 2025年11月7日(金)

9:30～12:00(対象：ベビー～K1) 13:00～15:30(対象：K2～Grad)

会場 キンダーキッズ福岡校

対象 キンダーキッズ・グラッドクラブ在籍者とそのご家族

内容 縁日・クラフト体験・ゲーム・バザーほか（チケット事前購入制）

